

新聞を読んで「社会」と「自分」を知る

猪名川町立六瀬中学校 校長 中西 一成
教諭 仲上 慎介

1. はじめに

本校は阪神地区の北部に位置し、北摂の山々に囲まれたのどかな田園風景が広がる校区で、全校生徒 109 人の小規模な学校である。幼少期から固定化された交友関係が続いており、必要最小限の言葉で意思疎通が取れる半面、言葉足らずによる生徒間のトラブルが少なくない。

新聞を購読している家庭は半数に達しておらず、購読していても新聞を読む習慣が身に付いている生徒は少ない。テレビやインターネットから情報を得ている生徒が多く、情報の表面的な内容しか理解していない場合がある。物事を掘り下げて深く考えること、物事の本質に迫るような核心を突く学びが苦手な現状がある。

また、自分の感じた思いや伝えたい内容が言葉足らずで、思ったように十分表現できないことから生まれる人間関係のトラブルも起きている。

こういった現状を踏まえて、物事の内容を的確に読み取る読解力、情報に基づいて自分の考えを持つ思考力、自分の思いを適切に相手に伝える表現力を育てる活動を行った。

2. 取り組み

① 新聞掲示板

本校には生徒玄関に大きな掲示板があり、ポスターや委員会活動の報告などが掲示できるようになっている。この掲示板の一角を用いて新聞掲示板を設置した。

主に新聞の一面記事を中心に、生徒の関心が高そうな記事や生徒に読んでもらいたい記事を教師が選んで掲示した。

生徒や教師は教室に行く際に必ずこの場所を通るため、授業の導入や合間に新聞記事の内容を取り上げる機会が増え、生徒の関心も高まっていった。

また、国語科の聞き取りテストの題材や社会科や体育科のテストの時事問題、学級活動で行っている一分間スピーチのテーマを新聞記事から引用することもあり、読んでためになる、読んで得する新聞掲示板になった。



生徒玄関の掲示板

② 壁新聞

単元のまとめや学校行事に関連付けて、壁新聞作りを行った。3年生では「冥王星が『準惑星』になったわけ」（三省堂）の単元のまとめとして「宇宙新聞」を作成した。2年生ではE S D教育の一環として「ふるさと新聞」を編集し文化祭に展示した。また、3年生で沖縄へ修学旅行に行くため、平和学習の一環として「平和新聞」を作成した。

X型の紙面を基本に、どうすれば読者にとって読みやすい紙面、読みたくなる紙面になるかを考えながら記事や写真の配置を考えた。

パソコン教室でインターネットから記事を集めたり、雑誌やパンフレットから情報を集めて記事にしたりしている生徒もいた。インタビューや自分で調べた調査などの記事が少なかったため、今後は自分にしか書けない独自の記事作りができるように指導していきたい。

完成した作品は廊下の壁に掲示した。たくさ

んの紙面を見比べることで、記事の配置の良しあしを考えることができた。また、他者の書いた、要点の整理された記事を読むことでテーマごとに学習が深まった。

約 1500 文字の原稿に 1 万字を超える記事を書こうとしている生徒もおり、文章の要点整理、推敲の練習にもなった。



壁新聞 (ふるさと新聞)

③ 新聞要約

1 年生と 3 年生で新聞要約練習を行った。1 年生では神戸新聞の HP からダウンロードしたテンプレートを基に、文章の要点がどこにあるのか、さまざまな文章に触れて読解する取り組みを行った。

3 年生では、国語のテストで、長文問題に時間を取られているという悩みを抱える生徒が多数いた。そこで、早く文章を読む力、重要な内容を見分ける力を鍛えるために、要約トレーニングを行った。

文章の主題は何か。筆者が伝えたいことは何か。文章の構造はどうなっているか。文章を説明している表やグラフの読み方など、新聞記事の内容は文学作品だけではなく、エッセーや論評など多岐にわたっているため、さまざまな分野のさまざまな文体の文章を通して学習できた。また、記事の内容も教科に関連したものから、実生活に根差したものなど、要約活動以外の話のネタにもなり、学びを深められた。

④ 新聞感想文

1 年生で多様な新聞記事を用いて、記事に関する 150 字程度の感想文を書く活動を行った。読書感想文などの「自分の感じたこと」を作文に書くのに抵抗がある生徒が多く、作文の練習を兼ねて行った。国語の授業の始めの 10 分ほどを使って行い、授業後に点検し、優れた作品を選び、次の授業で優秀作品を交流する流れを作った。初めは苦手だった生徒も他の生徒の上手な書き方や、表現の仕方をまねしていくうちに、少しずつ作文を書く時間が短縮され、内容も洗練されたものになっていった。

賛成や反対が分かれる内容の新聞記事では、他社の記事を読み比べ、自分自身でも考えを深めることで、多くの視点で物事を捉えられるようになった。記事の内容によってはディベートのテーマにして、討論会などに活動を広げられるとも思った。

⑤ 新聞記事意見交流会

本校生徒は新聞を読んでいても、スポーツ面や芸能面はよく読んでも、政治や経済、社会などの面に目を向ける生徒は多くない。

政治家の汚職事件や、経済政策の良しあしなど、生徒にとって一見面白くない内容が多いからだ。専門用語やアルファベットの略字などを見ても内容が頭に入ってくるににくいことも理由の一つだろう。

そうした事実を認識しつつ、1 年生で TPP に関する意見交流会を行った。TPP の問題を話し合うには、関税や、FTA、貿易など、身近な生活から離れた用語の習得が必要になる。こういった専門用語が記事に並んでいるため、全文を読む前から理解できないと諦めてしまう生徒が多い。しかし、記事によっては分かりやすく解説してあるものもあり、記事の内容を丁寧に解説することで、焦点を絞った意見交流ができた。

物事に付きまとうメリット・デメリットを比較し、国や国民の利益になるか真剣に考えるこ

とができた。また、日本の社会と経済が抱える問題について考える機会にもなった。

⑥ ひょうご新聞感想文コンクール

本年度は全校生の夏休みの課題として、「ひょうご新聞感想文コンクール」に参加した。授業で紹介した新聞記事や、学校の新聞掲示板で読んだ新聞記事、家庭で読んだ記事やインターネットで読んだものなど、さまざまな内容の記事の中から、自分が選んだ記事の感想文を書いて、コンクールに出品した。

個人での受賞はかなわなかったが、学校賞を頂き、賞状や盾を生徒たちに披露できた。また、個人で表彰された他校の生徒の作品を交流することで、同年代の中学生が記事を読んで、日本社会や世界についてどういった考えや視点を持っているのかを知る機会になり、日々の生活への刺激にもなった。

⑦ パネルディスカッション

時事問題を取り上げてパネルディスカッションを行った。テーマは、「夫婦別姓」「同性結婚」「定年制度」を取り上げた。

これらの題材は学級の中で賛成派と反対派が二分し、説得力のある発表をすることで、パネリストの支持を得ようと積極的にグループ内の話し合いが行われた。

特に夫婦別姓の題材は最高裁判所の審理が行われている最中に実施、新聞記事を参考にして考えを深めたり、グループで意見を出し合ったりしてパネルディスカッション本番を迎えた。

賛成派と反対派に分かれて意見をぶつけ合い、疑問点を追及したりする中で新聞記事の内容を引用して、自分たちの意見に説得力を与え、意見の根拠を深めさせるように工夫していた。

夫婦別姓や同性結婚の内容では、日本だけでなく世界の情勢がどのようになっているかを比較している新聞社があり、討論の主張の信憑性に説得力を持たせる証拠資料となっていた。

⑧ ほっとニュース交流会

新聞記事の中でも、心温まる「ほっとする」記事、心が熱くなる「刺激的な・興奮する」記事、「話題になる・最新の」記事、地球温暖化などの「あたたかい」記事を調べて交流した。

図書室に保管しておいた新聞記事の中から、自分が気に入った記事を見つけ、次に新聞記事の要点整理をして、概要を書き、記事を選んだ理由とほっとするポイントをワークシートに記入した。

記事を選ぶ段階で多くの生徒がスポーツに関する記事を選んでいった。野球、サッカー、フィギュアスケートなど、活躍する選手の大きな写真が掲載された記事が目立った。また、ノーベル賞などの偉業をたたえた記事も選ばれやすい傾向にあった。その他には、震災関連の記事、クリスマスなどの年中行事に関する記事が選ばれていた。

発表は学級のプロジェクターを用いて、書画カメラで自分の作品を投影して行った。自分の心が温まった「ほっとニュース」を紙面に簡潔にまとめることはできていた。しかし、文章で伝えられても、全体の前で言葉にしてプレゼンテーションすると、記事の核心や自分が感じた感動をうまく伝えられない生徒が多くいた。まとめたり整理したりする能力とともに、今後は自分の思いを的確に伝える力を鍛えていきたい。



ほっとニュース（記事選び）

⑨ 社会科討論会参加

3月20日に大阪教育大学附属池田中学校で行われた社会科討論会に参加した。全校生徒から希望者を募り、8人の生徒が参加することになった。討論会の議題は「TPPの是非について」だった。長らく交渉が続き、新聞でも頻繁に取り上げられていた題材である。

討論会に向けて、TPPに関する学習会を行って参加することにした。昼休みに15分学習会を4日間行った。関税について、TPPのメリットとデメリットについて、政府の見解と今後の展開について、そして、生徒間の意見交流を行い、当日の討論会に出席した。

当日はパネリストとして参加した。同年代の中学生がTPPに対してどんな意見を持っているのか、どのような見方をしているのかを知る機会となり、自分たちとは違う視点から賛成反対意見を述べている様子が新たな発見となった。また、新聞記者の記事解説などを聞いて新聞記事や日本社会に対する理解が深まった。



社会科討論会の様子

⑩ 道徳教材としての新聞活用

新聞の一面やコラム、投書などから人権問題や社会問題を取り上げた記事、震災関連記事、心温まる記事などを取り上げて、道徳の授業の中心読み物にしたり、補助資料として活用したりした。

既存の読み物資料の中には、一昔も二昔も前の社会情勢や見方で描かれた資料があり、指導

する際に現在との違いや現状を説明し直す必要があるものもある。

新聞記事を扱う際に有益な点は、最新の情報を取り上げられることにある。日本社会や世界の情勢、裁判所の判断、人権問題など、今起きている事態をすぐ教材にし、議論し学習できる点で、新聞は日々更新され続ける優れた教材といえる。

⑪ 教職員間の記事交流

新聞には、教育問題を取り上げた記事や、文科省の指針の解説などの記事もある。生徒へ情報を発信するだけではなく、教職員研修のために新聞記事を活用する取り組みを行った。

教職員に知っておいてほしい記事を職員数印刷し、朝の打ち合わせや職員会議の際、短時間で交流した。

国の進める政策の動向や、各自治体が行っている教育の取り組みを目にすることで、自身の教育活動が啓発され職務への意識が高まった。

3. 実践の感想と今後の課題

本年度からNIEの取り組みを意識するようになって改めて気付かされたのは、こんな身近に最新の教材があったのかという再発見だった。本年度は授業の補助資料や討論のための学習教材として用いるケースが多く、毎日続けたわけではなかった。今後はさらに授業や学校行事に関連付けて、新聞記事を取り上げる頻度を増やし、継続して学習を深めていきたい。

活字がびっしり並び、専門用語などの難しい言葉によって、読む気さえなかった生徒も、用語が分かりやすく解説され、伝えたい内容が簡潔に書かれている記事を読むうちに、その記事に興味を持ち、内容について自ら積極的に調べ、考えを深めることができた。読解力・思考力・判断力・表現力を育てるには、継続したNIE活動が大切だと感じた。今後もさまざまなことと関連付けて地道に取り組んでいきたい。